（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年6月30日※1
（前回公表年月日 令和4年7月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
福岡医健・スポーツ専門学校	平成14年4月1日	古谷野 潔	〒812-0032 福岡県福岡市博多区石城町7-30 （電話）092-262-2119
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6-16-2 （電話）03-5578-3311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	作業療法科	—	平成23年文部科学省告示第170号

学科の目的	「生命を尊重し、対象者が自立できるよう支援し、作業療法士として主体的に責任を持って行動できる能力」「作業療法に関する基礎知識と技術を習得し、作業療法における適切な判断、評価、実践できる能力」「柔軟な思考力と自主的な行動力を持ち、作業療法の発展に積極的かつ創造的に取り組める能力」を有した作業療法士を育成する。
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	3,530	1,305	1,065	1,040	0	120

単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	90人	2人	6人	26人	32人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表： 有 ■成績評価の基準・方法 各科目について、出席率、授業態度、試験の成績、レポート・課題の成績等を総合的に勘案し、以下の4段階評価とする。
長期休み	■夏 季： 8月28日～9月21日 ■冬 季：12月24日～1月 8日 ■学年末： 3月23日～3月31日	卒業・進級条件	1. 当該学年において、履修すべき学科目（必須科目）のうち、履修を認定されない学科目が1科目以上あれば、進級・卒業できない。 2. 履修すべき学科目のいずれかについて、出席回数が総授業回数の3分の2未満の者は、進級・卒業できない。
学修支援等	■クラス担任制： 有 ■個別相談・指導等の対応 ①担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との密接な連携強化 ②成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施	課外活動	■課外活動の種類 ①各種企業プロジェクト実行委員会 ②ボランティア実行委員会 ③学園祭実行委員会 ④体育大会実行委員会 その他 ■サークル活動： 有
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和4年度卒業生） 病院 ■就職指導内容 就職を専門に支援するキャリアセンターを設置し、一人ひとりの希望に沿って、履歴書指導、面接指導、求人獲得、企業見学・採用試験の設定から内定獲得交渉等を個別に行っている。また、仮に卒業式までに就職が決まらなくても、全ての学生の就職が決まるまで、卒業後も支援を行っ ■卒業者数 14 人 ■就職希望者数 14 人 ■就職者数 14 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 令和4年度卒業者に関する令和5年3月31日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年3月31日時点の情報） 資格・検定名 / 種 / 受験者数 / 合格者数 作業療法士 / ② / 14 人 / 14人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 （例）認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等
中途退学の現状	■中途退学者 3 名 ■中退率 3.8 % 令和４年４月１日時点において、在学者78名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和５年３月31日時点において、在学者75名（令和5年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 ①成績不振者に対する個別指導強化及び補習の実施②付属の歯成会クリニックによる健康管理（受診料実費負担なし・薬代負担なし）③進路変更希望者に対しては、担任と共に専任の進路変更委員が支援を行う。本人の希望に基づき滋慶学園グループ内への転校・転科が可能④担任による定期的・継続的個別面談の実施及び保護者との連携強化⑤常駐の臨床心理士（カウンセラー）による早期介入支援（メンタルサポート）⑥学費や経済面のサポートは、事務局会計課・専任のファイナンシャルアドバイザー・奨学金担当がきめ細かな支援を行っている		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有 ①滋慶奨学金（在校生対象の貸与型奨学金・無利子） ②学費分割納入制度（無金利・手数料等無、保証人不要） ③長期履修制度（留年に伴う学費免除） ■専門実践教育訓練給付： 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価： 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL）		
当該学科のホームページURL	HTTP://www.iken.ac.jp/		

（留意事項）

1 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

（1）「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

（2）「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

（3）上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体の役職員及び実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業の役職員が参画する教育課程編成委員会を年2回実施し、業界の動向や変化、それに伴うニーズや必要な人材像を把握すると共に、実施している授業やカリキュラム等を各委員に検証してもらいアドバイスや意見を頂く。また、教員による実習先訪問や就職担当による企業訪問を通して更なる情報収集を図る。それらを十分に生かしつつ、カリキュラムや授業方法の改善、授業科目の開設等を図り、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施する。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程の編成は、理事会の下に設置された教育課程編成委員会において討議した内容を十分に考慮したうえで、学科会議において編成を行うものとし、委員会の適切な運営は理事会が担保することになっている。また、教員組織規則において、「委員会の審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施する教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従って委員会を運営する。（以下図により、編成意思決定の過程を示す）

（教育課程編成委員会）　（学校・学科）　（教育課程編成委員会）　（学校・学科）

P（プラン） → D（実行） → C（チェック） → A（改善） → P（プラン）

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名　前	所　属	任期	種別
許山　勝弘	公益社団法人　福岡県作業療法協会 理事	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	①
丸田　淳司	医療法人誠和会　牟田病院 リハビリテーション部　科長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	③
坂下　竜也	医療法人徳洲会　福岡徳洲会病院 リハビリテーション科　副室長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	③
土本　佳正	福岡医健・スポーツ専門学校 事務局長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
古谷野　潔	福岡医健・スポーツ専門学校 学校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
河口　青児	福岡医健・スポーツ専門学校 副校長・教務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
松原　敏昭	福岡医健・スポーツ専門学校 教務事務部長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－
永田　敬生	福岡医健・スポーツ専門学校 作業療法科　学科長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日（1年）	－

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、
地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

教育課程編成委員会は年2回開催し、第1回目を毎年5月、第2回目を翌年1月に実施している。今年度開催（予定）日時は以下の通り。また、委員会欠席委員に対しては個別に意見聴取を行うなど、必要に応じて、適宜適切に分科会等を開催する場合がある。

（開催日時）

第1回　令和 5年 5月19日　15:30～17:00

第2回　令和 6年 1月26日　13:00～15:00（予定）

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
臨床実習現場に於いて学生をご指導いただく臨床実習教育者（SV）に対する教育の必要性のご指摘を頂いた。これに対処すべく、11/7開催の臨床実習教育者会議に於いて約70名のSVに対して教育公演「CCSの実際と形成的評価～臨床教育者の役割～」を行った。また、より効率的な学習指導を図るべきだとの意見に対して、臨床実習指導要綱を改正し、H30.2.5より始まる臨床評価実習から導入する。また、作業療法啓蒙の必要性についてご意見を頂いたので、教科書「作業療法の基礎知識」を新たに作成し、次年度より1年次教育や入学希望者に向けたオープンキャンパス等で活用予定である。また、学科を問わず全学科に共通した意見として、各委員からは、「コミュニケーション力の強化」「仕事に対する身構え・気構え・心構えといったプロ意識の確立」「社会的人格形成」「自主性・主体性・積極性の育成」「仕事観・職業観の確立による早期退職の防止」「基礎力と柔軟な応用力の育成」など、多くの意見を頂いた。これらを基に、コミュニケーションスキル検定の導入や授業内容・方法の改善を図ると共に、授業以外の教科指導、実習指導、生活指導、就職指導、国試対策指導等あらゆる機会をとらえて、キャリア教育の充実に向けた検討・環境整備に取り組んでいる。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、「学校と業界が協力をして、業界が求める即戦力の人材を育成し、業界に送り出す」という「産学共同教育」を開校以来実践してきた。即戦力としての職業人教育を行うため、業界と連携して専門知識・技術、人間力を有した人材育成を行っている。このため、特に実習・演習科目に於いては、現場の第一線で活躍するプロに非常勤講師を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施及び達成度評価を行っている。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

連携企業等と講師業務委託契約を交わした上で、現場の第一線のプロが非常勤講師として授業を行っている。学校と非常勤講師が協議して作成したシラバスを基に授業は進行され、成績評価は毎授業での到達目標達成度及び学期ごとに行う定期試験の結果をもって総合的に評価される。また、担当非常勤講師と学科専任教員は常に連携を密にし、情報を共有しながら授業運営に係る問題解決や授業改善に協力して取り組んでいる。更に、業界研修・臨床実習等を実施し、企業等の指導担当者の下、現場体験を深め即戦力としての更なる知識・技術の習得に努めている。実習実施前の協議を徹底すると共に、教員による実習巡回を通して指導担当者と教員の連携・情報共有を図り、協力体制を強化して教育効果の向上に努めている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床見学実習	地域リハビリテーションにおける診療チームの一員として作業療法士と共に行動し、作業療法の見学ならびに対象者や他スタッフとの関わりを通して学ぶ。	貝塚病院・岡部病院・加野病院・桜十字福岡病院・いきいきリハビリクリニック・神戸整形外科医院・介護老人保健施設　サンライズ壱岐
臨床評価実習	臨床場面において、対象者との接し方、評価、プログラム立案や他のスタッフとのかかわり方を習得する。	水戸病院・原宿リハビリテーション病院・福岡脳神経外科病院・伊万里整形外科病院・大分中村病院・東京品川病院・貝塚病院・名瀬徳洲会病院・野田病院・柿添病院・光武内科循環器科病院・鶴田病院・神戸整形外科医院・膵がい児者医療生活支援ホーム虹の家
臨床実習Ⅰ	各疾病、各年齢層の対象者について評価、問題点の抽出から再評価までの流れを把握し、実習教育者の下で作業療法を習得する。	高知大学医学部附属病院・糸島医師会病院・県南病院・徳之島病院・奄美病院・愛野記念病院・光武内科循環器科病院・貝塚病院・福岡整形外科病院・東京品川病院・太宰府病院・牟田病院・鶴田病院・神戸整形外科医院・大森整形外科医院・らそうむ内科リハビリテーションクリニック・虹の家
臨床実習Ⅱ	各疾病、各年齢層の対象者について評価、問題点の抽出から再評価までの流れを把握し、実習教育者の下で作業療法を更に深く習得する。	光武内科循環器科病院・大分中村病院・宮崎江南病院・福岡徳洲会病院・博愛会病院・加野病院・水戸病院・徳之島病院・種子島医療センター・貝塚病院・東筑病院・西福岡病院・牟田病院・神戸整形外科医院・聖マリアヘルスケアセンター・良創夢デイサービスセンター

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

学園の定める教職員規定において、専門技術・知識の向上、授業内容・教育技法の改善、クラス運営力の向上、マネジメント能力や指導力の向上などを研修の目的として、職歴や能力・経験、職責、担当業務に合わせて、定期的・継続的に業界と連携して研修を実施している。企業・業界団体等が開催する研修会や講習会に専任教員を計画的に参加させ、業界の変化やニーズを的確に把握すると共に、最新の技術・知識の習得に努めている。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:認定作業療法士研修【身体障害】
主　催:一般社団法人　日本作業療法士協会
実施日:令和4年8月20日・21日
参加者:作業療法科専任教員1名
内　容:認定作業療法士になるために必要な身体障害の作業療法に関する知識を学ぶ。

研修名:第13回九州医療哲学・倫理学会 学術大会
主　催:九州医学哲学・倫理学会
実施日:令和4年9月3日
参加者:作業療法科専任教員1名
内　容:テーマ「医学・医療の最前線における医学哲学・倫理学の役割」(オンライン)

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:FDミクロレベル<クラスマネジメント>研修
主　催:一般財団法人　滋慶教育科学研究所
実施日:令和4年5月26日
参加者:作業療法科専任教員1名
内　容:クラス運営の方法や具体的な学生支援について学ぶ(オンライン)

研修名:臨床実習指導者福岡県講習会
主　催:公益財団法人　日本理学療法士協会
実施日:令和4年7月9日・10日
参加者:作業療法科専任教員2名
内　容:臨床実習制度の理念と概要、臨床実習指導に必要な事項について

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:第47回日本高次脳機能障害学会学術総会
主　催:一般社団法人　日本高次脳機能障害学会
実施日:令和5年10月28日・29日
参加者:作業療法科専任教員1名
内　容:高次脳機能障害における知識・技術の研鑽

研修名:第3回(2023年度)理学療法士作業療法士専任教員養成講習会
主　催:一般社団法人 全国リハビリテーション学校協会
実施日:令和5年12月～6年2月
参加者:作業療法科専任教員1名
内　容:作業療法士の養成に携わる専任教員のために必要な知識・技術を習得することを目的とする。

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:2023年度マネジメント基礎研修(MBT)
主　催:一般財団法人　滋慶教育科学研究所
実施日:令和5年6月13日・14日
参加者:作業療法科専任教員1名
内　容:マネジメントに関する基本的な知識を得る。メンバーを生かしながら自組織の目指す姿を達成するための打ち手を立案し実践する。
自分のマネジメントの現状と課題を把握する。

研修名:2023年度カウンセリング研修<2次>
主　催:一般財団法人　滋慶教育科学研究所
実施日:令和5年9月
参加者:作業療法科専任教員2名
内　容:精神的・経済的理由等で悩んでいる学生に対するカウンセリング技術向上及び習得

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者として、卒業生、保護者、地域住民、高等学校、企業により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価して、様々な角度からアドバイスや支援を行うことを通して、学校運営の改善に活用することを方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	教育成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ミスマッチによる早期退職者が出ることがあるとの指摘があった。これに対処すべく、就職指導時に自己分析を徹底させると共に、「臨床評価実習」「臨床実習」に係る実習指導の時から仕事観や職業観を十分に持たせるよう指導を行った。また、理学療法科と同様に、入学者の基礎学力の低下に対する対策が必要である旨の指摘とその対策として、入学選考科目として従来の面接試験に加え新たに学力試験の実施の提案を頂いた。語彙読解能力や加減乗除といった基本的な計算能力が弱いと、中途退学や国家試験不合格を招く大きな要因となるとの意見であった。これに対処すべく、入学前年の10月より入学前授業を実施すると共に入学直後から、補習・補講を実施し、その対策に当たった。入学選考科目に学力試験を導入する件については、他学科との兼ね合いも考慮しながら、今後の検討課題とする。また、各委員より各項目概ね「評価4」の評価を頂いたが、その他の意見としては、学科を問わず学校全体への意見として、各委員から「コミュニケーション能力の更なる向上に努めてほしい」「国家資格の合格率と共に受験率の更なる向上を期待する」「「中途退学率の更なる低減が必要」「基礎力と応用力の強化が重要」など多くの意見を頂いた。リーダー会議、学科会議、キャリアセンター会議、全体会議等でこれらの意見を共有し、具体的な対策を実施し、その実現を図っている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

(令和5年4月1日現在)

名　前	所　属	任　期	種　別
村田　栄治	村田整骨院　院長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員(柔道整復科)
要　信義	要鍼灸院　院長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員(鍼灸科)
橋本　修二	社会医療法人財団池友会　福岡和白病院 医療連携室　主幹	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (救急救命公務員科)
福田　智	医療法人　せと山荘クリニック　統括部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員(理学療法科)
丸田　淳司	医療法人誠和会　牟田病院　医療部門科長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員(作業療法科)
案西　浩平	医療法人社団　桜香　あんざい歯科クリニック 理事長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員(歯科衛生士科)
今里　安江	医療法人社団　扶洋会　秦病院　看護部長	令和5年4月1日～ 令和6年3月31日(1年)	企業等委員(看護科)

安積　研二	AcroBats株式会社　取締役会長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員 (スポーツ科学科)
中西　祐介	株式会社サンドラッグ　人事部採用課主任	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	企業等委員(薬業科)
谷口　貴隆	スポーツ科学科　卒業生	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	卒業生代表
冨崎　尚美	在校生(鍼灸科2年)保護者	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	保護者代表
稲富　勉	福岡県立香椎高等学校　校長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	高等学校関係者
戎崎　淳一	福岡市博多区大浜公民館　館長	令和5年4月1日～　令和6年3月31日(1年)	地域関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期　令和5年6月30日　(前回 令和4年6月30日)

(ホームページ)・広報誌等の刊行物　・　その他(　　)

http://www.iken.ac.jp/

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校で毎年定める事業計画の実行方針で提起された目標(カリキュラムのイノベーション、中途退学率の低減、就職100%、国家試験合格率100%等)を具現化するために、企業等からヒアリングを行い、業界の動向を踏まえた実行計画を作成している。その為にも、学校の方針や考え方に加え、様々な詳細情報を十分に理解して頂いた上で、意見やアドバイス、支援を頂くことが重要となる。企業等への具体的な情報提供方法としては、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、業界関係者である非常勤講師との講師会、キャリアセンタースタッフによる企業訪問、企業とタイアップして行うイベント等あらゆる機会を活用して、積極的に情報の提供を行っている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校長名　所在地　連絡先　学校の沿革　建学の理念　学校安全関連　保健対策
(2)各学科等の教育	受入方法　定員　在校生数　カリキュラム　学年歴　シラバス　卒業進級判定基準　取得する称号 取得を目指す資格　資格試験合格実績　主な就職先
(3)教職員	教職員数　学校組織図　教員の実績
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育ロードマップ　業界研修　キャリアセンター　就職指導
(5)様々な教育活動・教育環境	設備紹介　海外実学研修　部活動
(6)学生の生活支援	中途退学防止支援　就職支援　健康支援　学費相談　進路変更支援　支援機関　　支援制度
(7)学生納付金・修学支援	学費一覧　奨学金　教育ローン案内
(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価委員会
(10)国際連携の状況	留学生支援　留学生の受入れ状況　外国の学校との交流状況
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法 ホームページ　広報誌等の刊行物

URL:　http://www.iken.ac.jp/

（別紙様式１－２）

授業科目等の概要

	（医療専門課程作業療法科）令和５年度																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			心理学	全人的リハ医療を実践するために、患者本意の医療者を育成するための医療行動科学の考え方と方法について説明できる。	1	30	2	○			○		○		
2	○			医学総論Ⅰ	現代社会の医療分野で生起する倫理問題に適切に対処するため、必要不可欠な生命倫理に関する基礎的事項を説明できる。	1	15	1	○			○			○	
3	○			医学総論Ⅱ	複雑化する現代社会の中で、心身の健康や活力のために展開されるレクリエーションが実践できる。また、障がい者スポーツの基本を説明でき、障がいに応じたスポーツの支援ができる。	3	15	1	○			○			○	
4	○			物理学	物理学は医療においても重要であるため、人間の運動の科学や各法則など、基礎となる力や運動、仕事やエネルギーについて説明できる。	1	15	1	○			○			○	
5	○			生物学	解剖学･生理学等の基礎専門科目を学ぶ基盤を作るために、生物学の基本が説明できる。	1	30	2	○			○			○	
6	○			情報処理学Ⅰ	パソコン・インターネット等、ITの基本的な仕組みを理解し、情報収集・解析・発信・コミュニケーションの道具として使うことができる。	1	30	2		○		○			○	
7	○			情報処理学Ⅱ	医療統計に必要な統計理論を理解し、医療現場における情報を収集し、分析ができる。	3	15	1		○		○			○	
8	○			人間関係論Ⅰ	対象者やその家族・職場での人間関係について、これらの基礎となる人間関係に必要な基本的コミュニケーションができる。	1	15	1	○			○			○	
9	○			人間関係論Ⅱ	対象者やその家族・職場での人間関係について、多職種連携に必要な応用的コミュニケーションができる。	3	15	1	○			○			○	
10	○			国際教育学Ⅰ	国際教育理念のもとで、グローバル化した社会に対応できるよう医療機関で求められる英会話ができる。	1	30	2	○			○			○	
11	○			国際教育学Ⅱ	医療人として必要な現場でのカルテ・処方箋などに使われる医療英語が理解でき、海外研修に必要な英語が使える。	1	15	1	○			○		○		
12	○			文章表現	知り得た情報から自分が理解できたことを文章で伝えることができる。自分が考えたこと、その理由づけを文章で書けるようになる。	1	30	2	○			○			○	

13	○			解剖生理学Ⅰ	人体の基本構造・運動器系の範囲を中心に身体各部の形態と機能の相互連関を学び、全体として生命を維持する人体について説明できる。	1	30	2	○			○			○	
14	○			解剖生理学Ⅱ	血液系・免疫系・内分泌系・循環器系の範囲を中心に身体各部の形態と機能の相互連関を学び、全体として生命を維持する人体について説明できる。	1	30	2	○			○			○	
15	○			解剖生理学Ⅲ	細胞・組織・発生学、呼吸器系・消化器系・泌尿器系・生殖器系の範囲を中心に身体各部の形態と機能の相互連関を学び、全体として生命を維持する人体について説明できる。	1	30	2	○			○			○	
16	○			解剖生理学Ⅳ	神経系の範囲を中心に身体各部の形態と機能の相互連関を学び、全体として生命を維持する人体について説明できる。	1	30	2	○			○			○	
17	○			機能解剖学Ⅰ	解剖学をより運動学的に学び、特に上肢・頸部・下肢・体幹の筋機能に関しての講義・演習を行い、骨･関節･筋による運動について説明できる。	1	30	2		○		○			○	
18	○			機能解剖学Ⅱ	解剖学をより運動学的に学び、特に上肢・頸部・下肢・体幹の筋機能に関しての講義・演習を行い、骨･関節･筋による運動について説明できる。	1	30	2		○		○			○	
19	○			運動学Ⅰ	人体の運動器の基本構造と機能、運動力学、さらに身体運動の機構について説明できる。また、上肢の構造と機能についても説明できる。	1	30	2		○		○		○	○	
20	○			運動学Ⅱ	下肢の構造と機能、運動力学、さらに身体運動の機構について学び、随意運動のメカニズムを説明できる。	1	30	2		○		○		○	○	
21	○			人間発達学	乳・幼児期から老年期まで、各段階における精神的・人格の発達、身体的発達、また発達の障害を説明できる。	1	30	2	○			○			○	
22	○			病理学	疾病に共通する総括的問題の病理学総論について学び、人体の各臓器における特徴的な病態像を理解することにより、疾患・本態を説明できる。	1	30	2		○		○			○	
23	○			臨床心理学	医療における臨床心理学的な支援の必要性とその背景、ならびに実践を行う際に必要とされる知識・技法について説明できる。	1	30	2	○			○			○	
24	○			内科学	臨床医学の中の内科疾患について、その病態生理から原因・経過・治療・予後に至るまで、医学的知識について説明できる。	2	30	2	○			○			○	
25	○			一般臨床医学Ⅰ	救急病態の総論・各論について説明できる。また、老年医学の病態や治療方法について説明できる。	2	30	2	○			○			○	
26	○			一般臨床医学Ⅱ	薬物の作用機序や投与方法、体内動態に関する基本的事項を理解した上で、対象疾患に関連した薬物療法の考え方について説明できる。	2	15	1	○			○			○	
27	○			一般臨床医学Ⅲ	各分野の疾患について、その基本的病態や特徴について説明できる。また、栄養・代謝障害や画像診断について説明できる。	2	30	2	○			○			○	

28	○			整形外科学Ⅰ	運動器の障害とリハビリテーションとの関係は密であり、その総論・各論について説明できる。	2	30	2	○			○			○	
29	○			整形外科学Ⅱ	運動器の障害とリハビリテーションとの関係は密であり、その総論・各論について説明できる。	2	30	2	○			○			○	
30	○			神経内科学	神経疾患の各論からリハビリテーションまで、その医学的背景を理解し、評価・治療について説明できる。	2	30	2	○			○			○	
31	○			精神医学	精神障害を引き起こす主な疾患の病因・病態生理・症候・診断について説明できる。	1	30	2	○			○			○	
32	○			小児科学	小児特有の病態を理解し、基本的な知識を身につけ、リハビリテーションにおける正確な評価・治療について説明できる。	2	30	2	○			○			○	
33	○			リハビリテーション医学	リハビリテーションに関わる疾患を理解するとともに、その後の障害の評価や治療について説明できる。	2	30	2	○			○			○	
34	○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの理念と目的を理解し、リハビリテーションに関わる他の専門職の概要や具体的なアプローチ方法等について説明できる。	1	30	2	○			○		○		
35	○			社会福祉論	現代社会における社会福祉の基礎から、各分野におけるサービスの理解、多様化する社会福祉問題、今後の課題について説明できる。	1	30	2	○			○			○	
36	○			職業関連技術論	就労支援を中心とした障害者のキャリア支援を理解し、作業療法の流れと役割について説明できる。	2	30	2	○			○		○		
37	○			チーム医療論	リハビリテーションに関わる地域福祉、他職種連携、ケアマネジメントについて、その仕組みと作業療法士の役割を説明できる。	3	30	2	○			○		○		
38	○			作業療法概論	作業療法の定義・目的・歴史や作業療法の流れ・役割・各領域の専門性について説明できる。	1	30	2	○			○		○		
39	○			基礎作業学Ⅰ	作業学に関わる基礎知識と作業分析を学び、作業分析をもとにした作業療法の原理が説明できる。	1	30	2	○			○		○		
40	○			基礎作業学Ⅱ	作業療法における様々な作業活動について、基礎的な知識・技術を理解し、作業療法の治療手段について説明できる。	1	60	2			○	○		○		
41	○			基礎作業学Ⅲ	作業療法の治療手段としての様々な作業活動を用いた治療が模擬実践できる。	2	15	1		○		○		○		
42	○			作業療法管理学	作業療法の職場管理において、求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について説明できる	3	30	2	○			○		○		

43	○			作業療法評価学Ⅰ	作業療法評価の概念等の基礎知識や観察及び検査測定等それぞれの目的と方法を説明できる。	1	60	4		○		○		○				
44	○			作業療法評価学Ⅱ	作業療法評価の概念等の基礎知識や観察及び検査測定等の基礎技法を学び、模擬実践できる。	2	60	4		○		○		○				
45	○			作業療法評価学Ⅲ	作業療法評価学で学んだ基礎知識・技術をもとに、治療的応用について学び、臨床思考過程を説明・模擬実践できる。	2	60	2			○	○		○				
46	○			身体障害治療学Ⅰ	脳血管障害などによる身体障害について、基本的な作業療法を説明できる。	2	30	2	○			○		○				
47	○			身体障害治療学Ⅱ	身体障害に対する作業療法の評価学、治療学で学習した知識・技術を臨床実践へつなげていくための基本的な作業療法について模擬実践できる。	2	30	2	○			○		○				
48	○			身体障害治療学Ⅲ	作業療法治療学および作業療法評価学で学んだ身体障害領域の知識・技術を模擬実践できる。	3	30	2		○		○		○				
49	○			精神障害治療学Ⅰ	精神障害作業療法の歴史・概念を理解し、精神科領域における基本的な評価や治療法の考え方を説明できる。	2	30	2	○			○		○				
50	○			精神障害治療学Ⅱ	精神科領域において各疾患の特性・障害について学び、それに応じた作業療法が模擬実践できる。	2	60	4	○			○		○				
51	○			精神障害治療学Ⅲ	精神科領域における作業療法評価・治療技法や記録報告などを体験的に学習し、基本的な作業療法を模擬実践できる。	3	30	2		○		○		○				
52	○			発達障害治療学Ⅰ	発達障害の領域における代表的疾患に対する基本的な作業療法の評価や治療について説明できる。	2	30	2	○			○			○			
53	○			発達障害治療学Ⅱ	発達障害領域における代表的疾患に対する基本的な作業療法が模擬実践できる。	3	60	4		○		○			○			
54	○			老年期障害治療学Ⅰ	老年期の各障害に対する作業療法の評価学、治療学で学習した知識・技術を臨床実践へつなげていくための基本的な作業療法について模擬実践できる。	2	30	2	○			○		○				
55	○			老年期障害治療学Ⅱ	高齢期の加齢に伴う身体及び精神機能面における変化と、高齢期障害に対する基本的な作業療法について説明できる。	3	30	2	○			○		○				
56	○			日常生活活動学Ⅰ	日常生活活動の概念について理解し、代表的なADL評価を学び、日常生活活動に対する基本的な活動・動作について説明できる。	2	60	4	○			○		○				
57	○			日常生活活動学Ⅱ	日常生活活動に対する基本的な作業療法について模擬実践できる。また、住環境整備と支援機器に関わる基本的な作業療法について模擬実践できる。	2	60	4		○		○		○				

58	○			高次脳機能障害治療学Ⅰ	中枢性疾患に重要な高次脳機能の概念や治療の基本が説明できる。	2	30	2	○			○			○	
59	○			高次脳機能障害治療学Ⅱ	高次脳機能の各障害ごとの臨床像・生活上の問題を把握し、その評価方法とリハアプローチができる。	3	30	2	○			○			○	
60	○			義肢装具学	義肢装具に関わる基本的な作業療法について説明できる。また、スプリントの作成ができる。	3	30	2	○			○		○		
61	○			地域作業療法学Ⅰ	地域における基本的な作業療法について説明できる。	2	30	2	○			○		○		
62	○			地域作業療法学Ⅱ	地域福祉の概念・思想・実践方法について総括的に説明できる。実際の現場において地域医療における作業療法士に求められる役割や地域包括ケアシステムについて説明できる。	2	30	2		○		○		○		
63	○			臨床見学実習	臨床場面において、対象者との接し方や他のスタッフとの関わりができる。	2	40	1			○		○	○	○	○
64	○			臨床評価実習	臨床場面において、対象者について評価を行い、プログラム立案ができる。	3	200	5			○		○	○	○	○
65	○			臨床実習Ⅰ	各疾病・各年齢層の対象者について評価・問題点の抽出～再評価までの流れを把握し、実習教育者の下で作業療法を実践できる。	3	400	10			○		○	○	○	○
66	○			臨床実習Ⅱ	各疾病・各年齢層の対象者について評価・問題点の抽出～再評価までの流れを把握し、実習教育者の下で作業療法を実践できる。	4	400	10			○		○	○	○	○
67	○			作業療法特論Ⅰ	業界で即戦力となるために、最近の情勢の変化に対応すべく先進的な学習・演習を行い、現在もっとも求められている実践的な能力を身につける。	1	15	1		○		○		○		
68	○			作業療法特論Ⅱ	業界で即戦力となるために、最近の情勢の変化に対応すべく先進的な学習・演習を行い、現在もっとも求められている実践的な能力を身につける。	1	15	1		○		○		○		
69	○			作業療法特論Ⅲ	業界で即戦力となるために、最近の情勢の変化に対応すべく先進的な学習・演習を行い、現在もっとも求められている実践的な能力を身につける。	2	15	1		○		○		○		
70	○			作業療法特論Ⅳ	業界で即戦力となるために、最近の情勢の変化に対応すべく先進的な学習・演習を行い、現在もっとも求められている実践的な能力を身につける。	2	15	1		○		○		○		
71	○			作業療法特論Ⅴ	業界で即戦力となるために、最近の情勢の変化に対応すべく先進的な学習・演習を行い、現在もっとも求められている実践的な能力を身につける。	3	15	1		○		○		○		
72	○			作業療法総合演習Ⅰ	目標を達成するための集団学習を行い、課題に挑戦し、医療現場で求められるチームワークを実践でき、作業療法士に必要な知識を総合的に説明できる。	4	60	4		○		○		○		
73	○			作業療法総合演習Ⅱ	目標を達成するための集団学習を行い、課題に挑戦し、医療現場で求められるチームワークを実践でき、作業療法士に必要な知識を総合的に説明できる。	4	60	4		○		○		○		

74	○			作業療法総合演習Ⅲ	目標を達成するための集団学習を行い、課題に挑戦し、医療現場で求められるチームワークを実践でき、作業療法士に必要な知識を総合的に説明できる。	4	60	4		○		○		○		
75	○			作業療法総合演習Ⅳ	目標を達成するための集団学習を行い、課題に挑戦し、医療現場で求められるチームワークを実践でき、作業療法士に必要な知識を総合的に説明できる。	4	60	4		○		○		○		
76	○			作業療法総合演習Ⅴ	目標を達成するための集団学習を行い、課題に挑戦し、医療現場で求められるチームワークを実践でき、作業療法士に必要な知識を総合的に説明できる。	4	60	4		○		○		○		
77	○			作業療法総合演習Ⅵ	目標を達成するための集団学習を行い、課題に挑戦し、医療現場で求められるチームワークを実践でき、作業療法士に必要な知識を総合的に説明できる。	4	60	4		○		○		○		
78	○			作業療法総合演習Ⅶ	目標を達成するための集団学習を行い、課題に挑戦し、医療現場で求められるチームワークを実践でき、作業療法士に必要な知識を総合的に説明できる。	4	60	4		○		○		○		
79			○	海外実学研修	実際に海外施設の見学や体験を通して、海外の医療制度やリハビリテーション専門教育の違い、さらにはリハビリテーションの実際について説明できる。	2	15	1		○			○	○		
80			○	国際リハビリテーションセミナー	海外の医療制度やリハビリテーション専門教育の違い、さらにはリハビリテーションの実際について説明できる。	2	15	1		○		○		○		
合計					80 科目				188 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	当該学年において、履修すべき学科目のうち、履修を認定されない学科目（不合格）が1科目以上あれば卒業できない。また、履修すべき学科目のいずれかについて、出席回数が総授業回数の３分の２未満の者は卒業できない。	１学年の学期区分	２期
履修方法：	講義・演習・実技・実習のいずれかにより、またはこれらの併用により行う。	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。